

新型コロナウイルスの 後遺症[※]について



Point

**後遺症は、
コロナに罹患した全ての方に
起こる可能性があります**

都立病院の相談窓口には、年齢や性別、基礎疾患の有無、コロナ発症時の重症度に関わらず、様々な方から相談が寄せられています。

Point

**後遺症かなと思ったら、無理な
活動は避け、かかりつけの
医療機関等に相談を**

都内の後遺症対応医療機関をHPへ掲載しているほか、都立病院に相談窓口を設けています。(詳細は裏面参照)

Point

**症状は時間の経過とともに
改善する傾向があり、
治療が有効なケースも**

治療に関する様々な研究や治験が、世界中で進められています。いまある治療でも症状が改善できることもあります。

新型コロナウイルス感染症の「後遺症」に関するQ&A

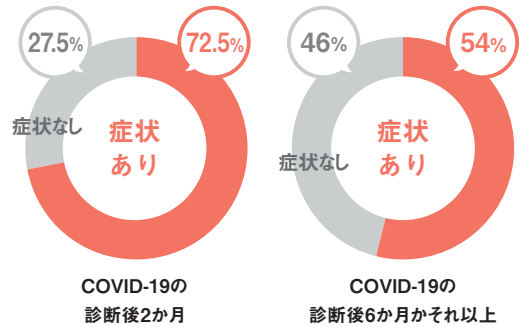
Q 後遺症とは？

WHO(世界保健機関)では「新型コロナウイルスに罹患した人にみられ、少なくとも2か月以上持続し、また、他の疾患による症状として説明がつかないもの」と、定義しています。

Q 後遺症が発症する割合は？

海外の報告では、診断から2か月で72.5%、診断から6か月で54%の方が何らかの症状を訴えているとの報告もあります。

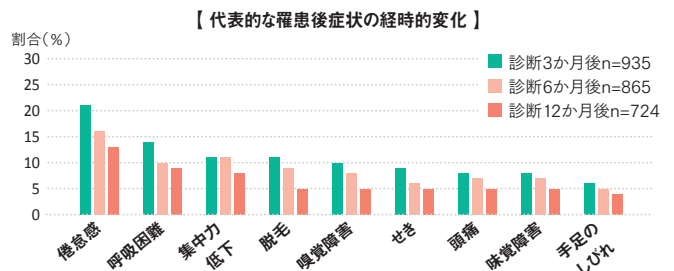
出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント 第1版」



Q 後遺症の症状はどのくらい継続するの？

COVID-19と診断され入院歴のある患者の追跡調査では、いずれの症状に関しても経時的に有症状者の頻度が低下する傾向が認められました。

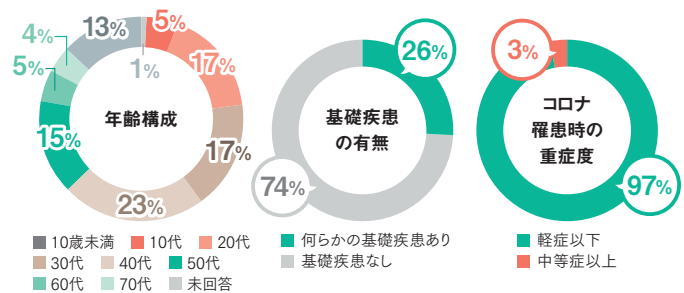
出典：厚生労働省「新型コロナウイルス感染症診療の手引き 別冊 罹患後症状のマネジメント 第1版」



Q 年齢、基礎疾患の有無、コロナ罹患時の重症度等で起こりやすさは変わるの？

都立病院の「コロナ後遺症相談窓口」には、年齢、基礎疾患の有無やコロナ罹患時の重症度に関わらず、後遺症に関する相談が寄せられています。若い世代や基礎疾患のない方も後遺症と無縁ではありません。

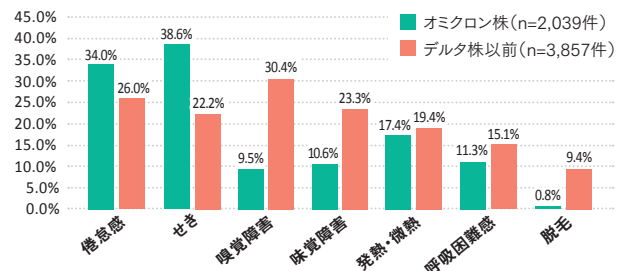
出典：第88回 東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料(令和4年5月26日)



Q どんな症状がみられるの？

倦怠感や嗅覚・味覚障害など、都立病院の「コロナ後遺症相談窓口」へ相談者が訴える症状は様々で、1人の相談者が複数の症状を訴えるケースも多い。また、オミクロン株ではせきが多いなど、変異株(感染時期)により傾向に差がみられます。

出典：第88回 東京都新型コロナウイルス感染症モニタリング会議資料(令和4年5月26日)



Q 子供の後遺症は、特徴や傾向などはあるの？

症状は、倦怠感・頭痛・嗅覚や味覚障害など、成人と同様に多岐にわたります。小学生の高学年から中高生に多いですがそれより小さい子供でもみられます。日常生活に支障をきたす(例えば学校に通えない)ケースもあり、そのような場合はかかりつけ医等の医療機関に相談することが重要です。後遺症だと思ったのが小児の一般的な病気が隠れていて、例えば息苦しいのが喘息発作である場合や、疲れやすいのが鉄欠乏性貧血の場合など、原因が特定できて治療可能なこともあります。後遺症は時間の経過とともに改善するケースが多いですが、辛い症状を周囲の大人が理解すること、無理をしないで症状や本人の体調に合わせた生活を送ることが重要です。



症状紹介

01 / 強い倦怠感

身体や精神的に「だるい」「疲れた」「疲れやすい」という軽い症状から、「体が鉛のように重く感じられる」といった強い症状まで様々な症例があり、さらに、重症化し「筋痛性脳脊髄炎／慢性疲労症候群」に移行する事例も報告されています。

[症例].....

コロナ療養終了後も「倦怠感」が数か月以上続き、日によって症状の度合は異なるが、100m程度の歩行で休息が必要となる日もある。肉体労働が多い職場であることもあり、職場復帰ができていない状況(40代男性)



02 / ブレインフォグ (Brain fog)

記憶障害、知的明晰さの欠如、集中力不足、精神的疲労、不安などを含む「脳の中に霧がかかったような」広義の認知機能障害の一種で、「頭がボーっとする」などの症状が特徴的とされています。

[症例].....

コロナ療養終了後も、「倦怠感」「呼吸困難感」「全身の痛み」が続いていたが、コロナ罹患から数か月後に症状が悪化。「記憶力が著しく低下」し、職場でもミスが続き、精神的にも不安定な状況(50代男性)



03 / せき

コロナ罹患時から咳の症状が継続(長い場合は数か月)する事例が報告されています。また、デルタ株以前に比べて、オミクロン株による感染と疑われる方からの訴えが多い傾向にあります。

[症例].....

コロナ療養終了後、仕事に復帰したが、「せき」「息苦しさ」「疲労感」が1か月以上続いたため、医療機関を受診。漢方薬、咳止め薬が処方され、受診から1か月後に「せき」は改善、さらにその1か月後には「息苦しさ」等の症状も改善(30代女性)



※ 症例は個人情報保護のため、個人が特定できないように加工しています。

その他の症状として

[味覚・嗅覚障害]

味やにおいがわからない、今までと違うと感じるなど



[呼吸困難]

息切れや息苦しさなどの呼吸器症状



[発熱]

一般的な発熱のほか、長期間にわたる微熱など



[抜け毛]

コロナ回復後(中には数か月後)に出現するケースも



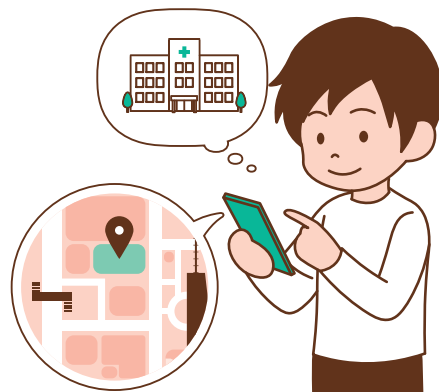
※ ここで紹介している症状以外にも様々な症状が起こることがあります。

後遺症かなと思ったら

1 都内の後遺症対応医療機関マップ

後遺症が疑われる場合は無理な活動は避けて、かかりつけの医療機関等にご相談ください。また、都のHPに、都内の後遺症対応医療機関をマップ上に表示して掲載しています。スマートフォンやパソコンから症状等で絞って検索可能です。かかりつけの医療機関での受診が難しい場合など、他の医療機関を検索する際にご活用ください。

※詳細はwebサイトで御確認ください。



2 都立病院における「コロナ後遺症相談窓口」

地方独立行政法人東京都立病院機構では、都立病院において新型コロナ後遺症の相談窓口を設置しています。電話で症状等の相談をお受けし、症状に応じて医療機関の受診につなげるなどの支援を行っています。

※受付時間等はwebサイトで御確認ください。



● 大久保病院	☎ 03-5273-7711(代表)
● 大塚病院	☎ 03-3941-3211(代表)
● 駒込病院	☎ 080-5933-4582(直通)
● 墨東病院	☎ 03-3633-6151(代表)
● 多摩総合医療センター	☎ 042-312-9163(直通)
● 多摩北部医療センター	☎ 042-306-3161(直通)
● 東部地域病院	☎ 03-5682-5111(代表)
● 多摩南部地域病院	☎ 042-338-5111(代表)

3 医療以外の各種相談窓口

後遺症に関する相談は、症状や受診などの医療的な相談以外にも、後遺症による失業や生活困窮等といった生活全般の相談など多岐にわたります。心の相談・労働など各分野の相談窓口をまとめた「各種相談窓口リスト」をHPに掲載していますので、ご活用ください。

※詳細はwebサイトで御確認ください。



監修：賀来 満夫(東京iCDC所長)

作成：東京iCDC 後遺症タスクフォース(五十音順)

小坂 健(東北大学大学院)

小田口 浩(北里大学)

土田 知也(聖マリアンナ医科大学)

花木 秀明(北里大学)

平畑 光一(ヒラハタクリニック)

堀越 裕歩(東京都立小児総合医療センター)

森岡 慎一郎(国立国際医療研究センター)

令和3年6月 第1版発行

令和4年9月 第2版発行

編集・発行

東京都福祉保健局感染症対策部計画課

新宿区西新宿二丁目8番1号

電話 03(5321)1111(都庁代表)